聖アンデレ教会 訪問記

日本聖公会 東京教区
聖アンデレ教会

上階より望む礼拝堂

11代牧師 司祭 笹森田鶴師
祭壇前の聖アンデレのまえで

ボーイ・ガールスカウトの活動拠点ロッジ

聖アンデレ教会の成り立ち

飯倉坂上を東京タワーへ向かい、左手の一段高くなったところに聖アンデレ教会が白く輝いている。隣は聖オルバン教会、前にメソニック本部、インドのタタグループ、東京タワーと並ぶ。

聖アンデレ協会を正面からみた外観

聖アンデレ教会は伝統的なキリスト教会であり、日本聖公会東京教区の主教座聖堂でもある。教会のパンフレットによると、「聖公会とは、聖なる公同の教会を意味し、現在は全世界で7千万人を超える信徒がいる。日本には350の教会と4万5千人の信徒が教育や社会福祉分野にも貢献。東京では、立教学院、立教女学院、香蘭女学校、聖路加国際病院などが関係している。明治12年(1879)英国からの宣教師アレクサンダー・クロフト・ショウ(以下A.C.ショウ師)が福澤諭吉の援助を受け、この地に聖堂を創設し日本語で最初の礼拝を行ったのが始まり。現在の聖堂は平成8年(1996)に完成した。『皆さんがご自由にお過ごしなされるよう開放しており、礼拝時の御案内も用意しております』との思いそのままに、同じ位置で互いの出会いを楽しめるよう内部を平面に設計した空間が広がる。『教会の主な活動は、毎日曜日に行われる礼拝(聖餐式)です。これは、イエス・キリストが十字架に掛けられる前の晩に弟子たちが行った共同の食事(「最後の晩餐」)を記念していて、この食事に参加することで、すべての人と手をつなぎ、ひとつとなって人々のために働く力を与えられるもの』と書いてある。

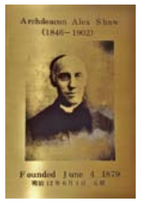
A.C.ショウ師による学びの貢献。そして意外な発見も。

A.C.ショウ師は、ペリーが浦賀に来航した嘉永6年(1853)の7年前、1846年にカナダのトロントに生まれた。論吉より11歳年下になる。1870年に司祭になり、明治6年(1873)英国公使館付き牧師として26歳で来日。日本での活動を、初代であるA.C.ショウ師から数えて11代目の牧師であり、司祭であるマリア・グレイス笹森田鶴牧師の創立記念文集から引用すると、「英国聖公会S.P.G(英国聖公会福音宣布協会)が初めて日本に派遣した宣教師として英語教師、慶應義塾の講師、神学校の設立、日本人聖職者の養成、東京地方の教会行政、東京女学館ー女子教育の創立に協力など、多岐にわたります。A.C.ショウ師の活動は、一箇所に定住して教会形成、会衆形成にじっくりと取り組むという方法であったようです。それ故に聖アンデレ教会でその指導を直接受けられた諸先輩方の多くが、日本聖公会のリーダーシップを発揮することを期待し、多くの聖職者たちを育てました。聖アンデレ教会は、このような熱い信仰の上に形成された教会です」とある。

また、カナダ人A.C.ショウ師は、明治19年(1886)の夏休みに友人の東大教師ジェームズ・ディクソンと、軽井沢が避暑地として適した場所であることを発見。以後毎年家族で訪れるようになり、この年が軽井沢避暑地元年となったとも言われている。

教会の名前は、スコットランドの守護聖人であるアンデレが由来だ。アンデレは、アンドリュー(英)・アンドレア(伊)・アンドレイ(露)とも言われ、イエス・キリストの12人の弟子の一人でペトロ、ヤコブ、ヨハネと並ぶ。伝承では、小アジア、スキタイで活動しヴォルガ川まで行ったと伝えられている。ルーマニア、ロシアでも守護聖人とされ、正教会のコンスタンチノープリでは初代総主教とされる。ギリシャのアカイア地方では、X字型十字架でアンデレは処刑され殉教したと言われており、これがアンデレを象徴した十字架となり、旗や紋章に使われている。例えばスコットランド国旗(青地に白)や英国旗ユニオンジャックの一部になっている。

［文 ■ 柴崎賢一、柴崎郁子
写真 ■ 米原剛］



創立者 A.C.ショウ師

創立136周年記念

●取材協力
笹森田鶴牧師　片岡大造さん　片岡仁枝さん
斎藤美代子さん
●参考文献
『軽井沢という聖地』　吉村祐美、桐山秀樹著　NTT出版
『福沢諭吉と宣教師たち』　白井堯子著　未来社

Information

日本聖公会 東京地区 聖アンデレ教会
芝公園 3-6-18　TEL 03-3431-2822
●ホームページ http://www.st-andrew-tokyo.com

芝の食文化

赤飯

祝い事に欠かせない ハレの日のめでたい行事食

店主の森田慶三さん

卒業や入学、入社のシーズンを迎え、お祝いをする家庭が多いことでしょう。日本では昔から、祝い事には赤飯をお印として出すのが慣例となっています。春に限らず慶事や成人、賀寿など人生の節目の時、また五節句、お祭りにも赤飯は欠かせません。

最近ではあまり見られなくなった初午(はつうま)、新築の上棟式、農家の田植えの日には赤飯を炊いて、神棚や仏壇にお供えしてから近所に配ったものです。赤い色は邪気を払い、厄除けの力があると信じられて縁起物に用いられました。

赤飯のことを"おこわ"とも言いますが、これは、昔は赤米を固めに蒸したので強飯(こわめし)、つまり固い飯のことなのです。やがて白飯にあずき、またはささげを混ぜて蒸すようになりました。

一般庶民が祝い事に赤飯を出すようになったのは、江戸後期頃からです。関西ではもち米にあずきを、関東ではささげを使うことが多いようです。

塩釜神社そば、店に入ると、ほのかにあずきの香りが漂う和菓子専門の「東海菓子店」があります。

御年75歳の店主、森田慶三さんは、午前3時頃から9時頃まであずきを煮て生地を練り、15種類もの和菓子は全て手作業で作り、8時の開店準備まで一人でこなしています。10時になると、世話好きと言われる人気者のおかみさんが店先で呼び込みを始め、客が続々と入ってきます。

赤飯は予約制で、大釜の上に何段もせいろを

上から時計回りに、東海菓子店が元祖の栗きんとん最中、茶通、きみしぐれ

赤飯が出る日は店先に赤ちょうちんを提げる

もち米とささげの
ほのかな甘みが絶妙な赤飯

重ねて蒸します。もち米は千葉県産、ささげは北海道産を使っています。予約のあった日は多めに作り、店にも出します。

和菓子類は、あんに少しだけ塩を加えて甘さを引き出すのが店主流。みそまんじゅうの皮には醤油を少し入れて、みそらしい色合いと風味を強調します。まんじゅうの皮には、春はさくら、夏は鮎を、秋にはもみじの焼き印を押して季節感を出しています。

祭りやイベントの時には、大きな石臼と杵で、一人でたくさんのおもちを搗(つ)くので大忙し。既製品とはひと味もふた味も違う、もちもちとした柔らかな食感が味わえると、多くの注文が入るほど地元から親しまれ、頼られています。

普段は、石臼を店先に置き蓋をして、客が座って順番を待てるよう、腰掛けにしています。

昭和の雰囲気が漂う店と和菓子の味。長年ご夫婦2人でコツコツと地元に根づいた商売をしている姿が、何とも味わい深く感じられます。

［文 ■ 千葉みな子　写真 ■ 米原剛］

●参考文献
『祝いの食文化』松下幸子著　東京美術

Information

東海菓子店
新橋5-31-8
TEL 03-3431-2974

知ってる? 乗ってる?

春風爽やか自転車シェアリング

都心でも少しずつ春の訪れを感じるようになってきました。
厚手のコートを脱いで自転車で出かけてみませんか。春風が心地よいですよ!

区では、平成26年(2014)10月から環状2号線周辺(新橋・虎ノ門)エリアと港南エリアの2つの地域で自転車シェアリングをスタート。その後、区内で展開し、昨年12月末時点で区内27カ所のサイクルポートに合計295台の電動アシスト自転車が配備され、登録者数は11,178人となっています。利用形態は、30分単位で借りる1回会員、月単位での月額会員、1日パスの3種類が用意されているほか法人契約もあります。料金は30分の1回利用で150円、1カ月だと2000円(ともに税抜き)。

利用にあたっては、パソコンまたはスマートフォン端末などから港区自転車シェアリングのサイトにアクセスし、新規会員登録をする必要があります(詳細は記事末尾に掲載のホームページ参照)。

シェアリングと貸自転車の最大の違いは、乗り捨てができること。芝地区で借りて、六本木のポートに返却という区内の利用はもちろん、今年2月からは千代田、中央、江東の3区とも横断的に使えるようになりました。つまり4区で116ポート、1,115台(12月1日現在)の自転車が利用可能ということ。

新虎通りを走る

サイクルポート(区役所横)

利用者が多い虎ノ門ヒルズ脇のポート

千鳥ヶ淵で桜見物をして靖国神社横から自転車で芝地区に帰ってきたり、芝地区で借りてレインボーブリッジ(橋の上は手押し通行)からお台場、有明、豊洲までサイクリングを楽しんで、ショッピングモール横に返却、帰りは地下鉄でといった楽しみ方もできそう。

自転車シェアリングを頻繁に使っているという芝地区在勤の男性は、「毎日の通勤にも利用しています。区内にはポートが多く設置されていて、大変便利」と、生活に欠かせない交通手段になっていると話しています。

サービス圏域が4区に広がったことで今後は利用拡大が期待できるほか、車体の一部に広告を掲示することも決まり、新たな収入源になると見込まれています。

区では、来年度予算に約1億5000万円を計上してポート数を170カ所、自転車を1,710台まで増やす計画。4区全体でもポート数と自転車の台数増加を検討し、利便性のさらなる向上を目指しています。

サービス開始から1年が過ぎ、自転車シェアリングは徐々に定着してきたと話すのは、街づくり支援部交通対策担当の西川克介課長。利用度を測る回転率を見ると、当初は1日0.53回というペースでしたが、昨年10月時点で2.66回まで増えてきています。つまり1台あたり毎日平均3回近く利用されているということ。これにより放置自転車減少という効果も現れてきた一方で、登録者の個人情報管理や特定ポートへの自転車集中といった課題も見えてきたといいます。

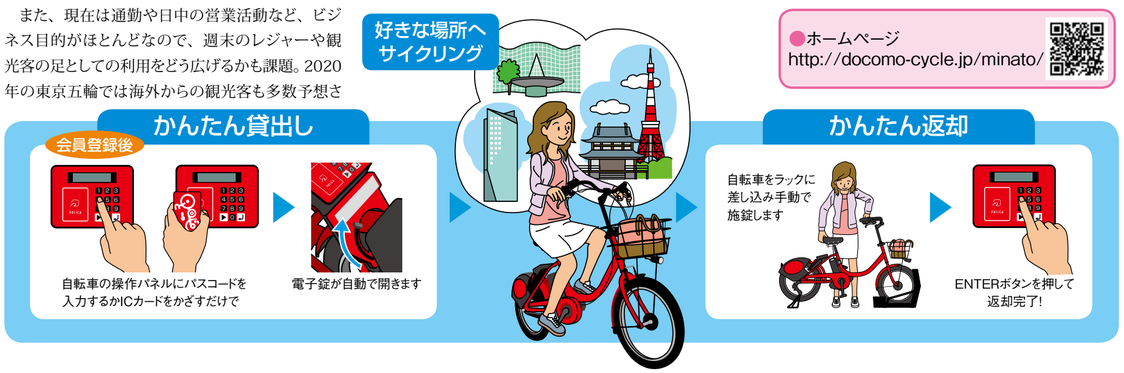
また、現在は通勤や日中の営業活動など、ビジネス目的がほとんどなので、週末のレジャーや観光客の足としての利用をどう広げるかも課題。2020年の東京五輪では海外からの観光客も多数予想されるため、スマートフォンアプリ「港区まち歩きナビ」を自転車にも利用できないか、区で検討中だそうです。

身近なふれあいが生まれ、旅の満足度が高まる交通手段として、自転車への期待には大きなものがあります。また、五輪後も、鉄道やバスなどの公共交通機関と連携を図りながら、便利で環境にも優しく、健康増進にも役立つ乗り物として、もっと注目が集まることでしょう。それにあわせて、自転車専用レーンの整備も必要で、区では区道における自転車ネットワークの総延長を50kmまで延ばしていく計画で、近年増えている自転車と人との接触事故も減らすことができそうです。

国土交通省と警察庁がまとめた資料「自転車利用環境をとりまく話題」によると、5km以内の移動手段としては自転車が最も所要時間が短く、効率的な交通手段であるにもかかわらず、都市部で利用される乗用車の39%が5km未満となっているそうです。こうした人たちが自転車を活用すれば、環境にも安全にも、そして経済的にもスマートなまちになっていくことでしょう。

［文 ■ 中川寛之］

●ホームページ
http://docomo-cycle.jp/minato/



区役所のサービスや施設・催しの案内はみなとコールがお答えします! TEL03-5472-3710 年中無休 午前7時～午後11時

青字に白でJapanese Lessonsと書かれた看板が目印

日本語教育を中心とした多彩な活動は今年で39年目に

公益社団法人 国際日本語普及協会 AJALT

神谷町交差点から御成門方面に歩いてすぐ、光明寺に隣接するビルにAJALT(アジャルト)はある。

まだ、外国人に日本語を教えることがめずらしかった昭和52年(1977)に、現会長の西尾珪子(けいこ)さんを中心に教師たちが自主的に集い協会を設立した、日本語教室の草分け的存在でもある。事業の大きな柱は外国人に対する日本語教育。子どもから大人まで、さまざまな国籍の人たちに日本語を教えており、神谷町の教室で常時クラスを開講しているほか、東京近郊の企業や大使館、大学などにも教師を派遣して授業を行っている。大使館勤務開始に備えて神谷町教室で集中レッスンを受講中の外交官は、「この地域は都心にもかかわらず、周辺にお寺や神社がたくさんあって、落ちついた環境で勉強できます」と話してくれた。

AJALTの教師会員の皆さん

神谷町の教室で学ぶ生徒と先生

ベストセラーの『Japanese for Busy People』シリーズは仕事の傍らに勉強できるよう、実用的な日本語表現がたくさん使われている

授業は、既存の教科書を使った画一的なものではなく、生徒のレベルに合わせ先生たちが独自にアレンジした方法で楽しく学べるのが特徴。レッスンの一環として、近くの商店で買い物の実践練習をしたり、愛宕神社や増上寺などに出かけて参拝の仕方を教わったりすることもある。芝地区は、外国人が高い関心を寄せる寺社仏閣が多く、学びの教材に事欠かないそうで、実際に日本の伝統にふれる授業は生徒たちに人気だ。

協会ではオリジナル教材も数多く開発している。例えば、初歩からコミュニケーションのための日本語を学べる『Japanese for Busy People』シリーズは、世界中で170万冊以上使われているベストセラーである。オリジナルの教材を使った地元での活動にも積極的で、区立小学校に在籍する外国人児童への日本語指導では、「かんじ だいすき」シリーズの基礎編・教科編を活用しながら、日本語を母語としない子どものために無理なく楽しく、漢字力がつくよう工夫している。

地元での活動の幅も広がりをみせている。3年前から文化庁の事業の一環として、光明寺境内のホールを利用し、日本で暮らす難民に対する日本語教室を開催している。また、今年度は、港区や区の国際交流協会、ボランティアの方々と連携して、地域の日本語教育を推し進めていくために、「ネットワーク会議」と「地域日本語フォーラム」をもあわせて開催している。

関口理事長は、「設立以来38年間、港区に拠点をおいて活動してきました。今後はさらに地域との関わりを深めていきます。日本語教育についてお知りになりたい時はどうぞお気軽にのぞいてください」と笑顔で話してくれた。

［文 ■ 柴崎郁子　写真 ■ 米原剛］

●取材協力
公益社団法人　国際日本語普及協会
理事長　関口明子さん
専務理事　内藤真知子さん
常務理事　戸田佐和さん
広報担当マネージャー　青木　忍さん

Information
公益社団法人　国際日本語普及協会
虎ノ門3-25-2　虎ノ門ESビル2階
☎03-3459-9620
●ホームページ　http://www.ajalt.org

ご近所ラボ新橋をご存知ですか?

外観撮影：米原 剛

ご近所ラボ新橋は、子どもから大人まで、地域の誰もが集い、交流することができる場として、芝地区総合支所と慶應義塾大学との協働によりオープンした「地域をつなぐ! 交流の場づくりプロジェクト」の拠点です。名前の「ラボ」に込められたのは、「地域を少しでも良くしていけるような試みを積極的に行っていく、わくわくする実験室(ラボ)のような場所に」という思い。平成26年(2014)4月のオープンからもうすぐ2年が経ち、多世代にわたり利用者が少しずつ増えてきています。

ラボのオープンスペースをのぞいてみると、左奥にはオープンキッチン、横にはコミュニティラウンジがあり、それぞれの場所でおしゃべりを楽しむ人々の姿が見られます。仲間うちだけで盛り上がっていることも、堅苦しい上下関係もなく、お互いをニックネームで呼び合うようなフラットな関係性を保てるご近所さんの憩いの場所。ラボにはいつも、自然で自由な空気が漂っています。

今回は、仕事や学校の帰りに立ち寄る人の多い夜間に行われている活動を主に紹介します。明日に備えての気分転換になるような内容が目白押しです。

それぞれの曜日には、日ごとに代わるボランティアのスタッフ、通称曜日マスターがおり、マスターのコーディネートによる対話と交流を中心としたプログラムが行われています。

月曜日は、「ご近所ダイバーシティラボ」(ダイバーシティ＝多様性)というオープンディスカッションが開催されています。ラボ周辺の地域、新橋五・六丁目をもっと知ろう、とマスターが思い立ったのがきっかけで始まりました。ラボから飛び出し、参加者でまち歩きをすることも。同じく月曜日に開かれる新聞部編集会議にて作成する、月に1回発行の「新橋ラボタイムス」には、ディスカッションの内容やご近所ラボ新橋のリアルタイムの活動が詳しく掲載されています。

区主催の「ご近所イノベータ養成講座」の修了生もラボで活躍しています(写真：飯塚 正倫)

火曜日は、ヨーロッパで親しまれているボードゲームなどをコミュニケーションツールとして使い、遊びながら楽しく会話を広げるボードゲーム部を時々開催。愉快で気さくなマスターが、ゲームを盛り上げてくれます。

毎週水曜日は「対話ラボ」の時間です。対話したい人たちのために、誰にでも開かれています。一期一会の対話と交流が和やかな雰囲気で行われており、出てくる言葉と、その時その場にいる自分自身を味わう、充実した時間を過ごせます。毎月第一水曜日の夜は軽食をとりながら、関心のあるテーマについて、みんなでにぎやかに話しています。人と対話することが好きな人は、どなたでもウエルカム! ぜひお越しください。

木曜日は2～3カ月に1回のペースで「収穫野菜の料理会」を開催。きらきらプラザ新橋の屋上菜園で育った野菜の味を楽しめます。

「ほめる達人」であるマスターを中心に、「ほめほめナイト」を月1～2回行うのが金曜日。自分自身ががんばったことを参加者同士で共有し、お互いに照れずにほめ合います。自分の思いを素直に伝える大切さを感じながら一週間を締めくくる夜です。毎月第一金曜日の夜には図書部のセッションが行われるほか、シニア向けの「達人企画」も開催しています。

自由に誰かとおしゃべりでき、また、対話を通して自分を表現し、周りからの刺激を受けられるこの場所は、利用者にとって心の居場所となることでしょう。マスターも、自由な発想で「このひとときが楽しい」と思えるような空間づくりを心がけています。

この施設に入るのに、勇気などいりません。あなたも風のように新しい世界に飛び込んでみませんか? 地域をちょっと豊かにする活動も、ラボの中であなたらしく始めることができます。好きなことをしていることが幸せ…そう思えるプログラムをきっと見つけられるでしょう。

ほかにも講座や特別イベントが開催されるので、ご近所ラボ新橋のホームページを、ぜひご覧になってください。

［文 ■ 田岡恵美］

Information
ご近所ラボ新橋
新橋6-4-2　きらきらプラザ新橋1階
TEL 03-6459-0789
●ホームページ　http://lab.gokinjo-i.jp

芝地区 いきいきプラザ

プラザ神明フェスティバル

今号は、前回に引き続き12月のプラザ神明フェスティバルを紹介します。12月は、9月に行われたフェスティバルとは全く趣向が違う「お祭り」です。フード、ブース、ステージの3つの構成。それぞれにいろいろな魅力を見つけました。

味、ボリューム満点のフードコーナー

お祭りに食べ物は欠かせません。豚汁や唐揚げ、炊きこみご飯などが一緒になった格安の「めえめえセット」やB-1グランプリを受賞した富士宮焼きそばなど、美味しいものばかり。お腹いっぱいになりました。

わくわくブースコーナー

子どもから大人まで誰でも楽しめるいろいろなブースが用意されていました。例えば、影絵シアターでは、保育園の先生が「ブレーメンの音楽隊」を公演。また、芝会議地域コミュニティ部会は、自然の木を使ったクリスマスリース作りを企画し、一人ひとりオリジナリティのある作品ができあがっていました。その他、芝CCクラブによるペーパークラフト、フェイスペインティングやアロマハンドマッサージ、縁日など、さまざまなブースがあり、地域の方やボランティアの方が活躍していたのも印象的でした。

お楽しみステージ

保育園児や地域の小学生、中学生、高校生、子ども中高生プラザの子どもたち、いきいきプラザ主催の事業に参加している皆さんなど、ステージの出演者はさまざま。出演者同士がコラボするなど、子どもと大人が一緒にステージに上がって楽しんでいました。最後に「みんなでソーラン節」と題して、体育館の中にいる全参加者で「なるこ」を持って、南中ソーランを踊りました。踊ったことがない人も、「なるこ」を手に一緒に参加。準備された500セットの「なるこ」は全て使われたとのこと。場内満員で盛り上がりました。その他にも、大抽選会や「阿見とれたて野菜市」など、いろいろなコーナーがあり、楽しむことができました。

12月のフェスティバルは、地域の子どもから大人までたくさんの方が参加し、みんなで一緒に作ったり、遊んだりすることで、自然と多世代交流が生まれるイベントでした。

芝地区の各いきいきプラザでは、春の芝地区元気フェスタ(三田)、とらトピアの夏祭り(虎ノ門)など、それぞれが趣向を凝らしたイベントを開催しています。また、いきいきプラザはお祭りだけでなく、多種多様な取り組みをみんなで行っている施設です。ぜひ、楽しみにいらしてください。

［文・写真 ■ 米原剛］

次回のイベントのお知らせ
企画名　芝地区元気フェスタ
会場　三田いきいきプラザ
日時　3月6日㈰午前11:00～午後3:30
参加費　入場無料(食券有料、前売券あり)

●写真・資料提供
指定管理者：百葉の会・東急コミュニティー共同事業体

Information
三田いきいきプラザ
芝4-1-17　TEL 03-3452-9421
神明いきいきプラザ(プラザ神明)
浜松町1-6-7　TEL 03-3436-2500
虎ノ門いきいきプラザ(とらトピア)
虎ノ門1-21-10　TEL 03-3539-2941
●ホームページ　http://shiba-ikiiki.com

三田

神明

虎ノ門

区役所のサービスや施設・催しの案内はみなとコールがお答えします！　TEL03-5472-3710　年中無休 午前7時～午後11時

歴史探訪

英国人ブラック　明治5年

日本語新聞「日新真事誌」増上寺源興院にて発刊

奥　武則 著
ジョン・レディ・ブラック
岩波書店

数奇な人生と新聞発刊師

ジョン・レディ・ブラック(John Reddie Black 1826-1880)は、英国スコットランドで生まれ、ロンドンで学校を終えて仲介業を営み、その後結婚。嘉永7年(1854)オーストラリアに移住し、商業会議所の委員となる。安政5年(1858)に、後に外国人初の落語家「快楽亭ブラック」となる長男ヘンリーを授かった。次の年に仕事で債権回収に失敗。ピアノ、家財一式を競売に出すも、歌好きのブラックは芸に身を助けられる。故郷の民謡などを歌いながら、オーストラリア、インド、中国に行き、元治元年(1864)、日本にやって来た。

慶応元年(1865)、ブラックは、横浜の英国人ハンサード(Albert Hansard 1821-1866)の競売業のパートナーになる。一方で、ハンサード創刊の英字新聞「ジャパン・ヘラルド」の編集に参加、後に社主となる。しかし、慶応3年(1867)、債務保証人になり、ヘラルドを競売に出した。

同年、ブラックは、英字夕刊紙「ジャパン・ガゼット」を創刊。さらに、明治3年(1870)から明治8年(1875)まで、絵入り隔週刊新聞「ファー・イースト」を発刊していた。

地図 増補港区近代沿革図集 新橋…芝公園…明治20年(1887)P20

ブラックは、明治5年(1872)3月、日本語の新聞「日新真事誌」を日本初の外国人社主兼編集長として貌刺屈社名で、築地居留地にて創刊。4月には芝山内源興院に移し、家族とともに住んでいる。明治6年(1873)に銀座、現「和光」のある場所に事務所を移した。

この頃、自由民権運動などが高まり始め、政府を批判する新聞が多く発刊されてくる。日新真事誌は、明治6年(1873)に井上馨らが政府に出した「財政改革に関する奏議」なる機密文書をスクープ。明治7年(1874)には板垣退助らの「民選議院設立建白書」などを掲載した。

明治8年、政府は社名と編集者の変更を求めるも、条約による外国人保護によりブラックに罰金を科すこともできなかった政府は、ブラックを左院(明治時代の立法機関)雇いとして社主を辞めさせ、新聞紙条例の成立で同年12月の号を最後に新聞、機械を没収。日本人を皆捕縛し、廃刊させた。

日新真事誌を廃刊させられても、なお、明治9年(1876)1月に「萬国新聞」第1号の発刊を強行して、ブラックの日本での新聞発刊師人生は終わりとなった。同年上海に去ったが、病身で明治12年(1879)に戻り、激動する時代の証言者として「ヤング・ジャパン」を書き、横浜に留まった。

増上寺 源興院

源興院の開祖は、京都の寺より増上寺貫主の弟子になった秀誉である。安土桃山時代の増上寺源誉存応上人、観智国師(1544-1620)の舎弟を檀家に迎えているから古い。

嘉永7年(1854)頃に源興院の了瑩院主は、五百羅漢像を描きたい画家、狩野一信を支援する。狩野一信が増上寺学僧の教えを受けて創った五百羅漢百幅の掛軸は、今も増上寺寺宝である。

源興院には大きな墨絵の襖と書院と庭があり、当時、新聞の官報掲載を示す「左院御用」と書いた高張提灯を門前に立てていた。また、貌刺屈の名前で「献灯」と書いてオランダ製のシャンデリアを増上寺に寄贈した。関東大震災前までそのシャンデリアは増上寺書院の裏堂に吊るされていて、時を経て破損はしていたが美しく輝いていたという。

源興院は、現在増上寺一派から離脱し、建物は残っているが、一部分は駐車場になっている。

日新真事誌、萬国新聞

日新真事誌の編集長となったブラックは、ハンサードが「ジャパン・ヘラルド」の創刊号に「新聞の方針は全ての干渉から独立及び自由である」と表明した言葉を心に留めていた。

ブラックは4年間で60人以上、幕藩体制の崩壊により流失した士族を雇った。教養のある士族たちは書くことを欲し、政府や役人を批判し、主筆が投獄されたとしても、危険を恐れなかったという。

また、新聞に使う活版印刷用の日本語活字は、最初に香港から取り寄せたが、次に日本の事務所で彫刻師を雇い木版で文字を彫らせた。使用する活字は1万2千字を超えていたという。明治6年12月からは鉛の金属活字になった。

ブラックは、日新真事誌に告白(社説)、太政官布告(今の官報)、広告、投書、事件報道などを書き、今日の新聞の原型を創りあげた。

創刊号で、非人間的見世物を戒め、西洋料理、菓子渡世「文明堂万吉」開店の広告、そして、明治5年9月に開業した「新橋―横浜」間の鉄道の時刻表も、10月の号に1日9本、所要時間53分、座席上、中、下で、運賃(上)は一両二朱、「小児四才迄ハ無賃、十二才迄ハ半賃金ノ事」などと掲載している。

さらに、ブラックは、最後の萬国新聞に、民の自由な意見や思想を掲載し、政府がどのような輿論があるかを知ることこそが新聞の役目であり、また日本の開明と幸福は我が事であると述べている。

＊　＊　＊

ブラックは明治13年(1880)6月11日に波乱に満ちた生涯を終えた。何度も他人に巻き込まれ、幸運であったとは言い難いが、困難な折々に歌に救われ、明治維新史に新聞発刊師としての軌跡を残し、横浜の外人墓地に眠っている。

［文■森 明］

●参考資料
奥　武則 著　ジョン・レディ・ブラック　岩波書店
浅岡邦雄 著　日本におけるJ.R.ブラックの活動　横浜居留地の諸相　横浜開港資料館
井本匡彦 著　横浜ゲーテ座　岩崎博物館出版局
昭和女子大学近代文学研究会 編　近代文学研究叢書第1巻
The Japan Gazette、The Japan Herald、日新真事誌、The Japan Daily Herald　11th　June　1880
横浜開港資料館編集　横浜ものがたり
遠藤元男・下村富士男 編　国史文献解説　続　朝倉書店
ねず・まさし、小池晴子訳　ヤング・ジャパン1、2、3　平凡社
芝区誌　全 東京都芝區役所
白木葉保子 著　逸見一信筆「五百羅漢図」と増上寺学僧の戒律思想　九州大学
国立公文書館アジア歴史資料センター
3-2787　0186　3-2787　B12082633300　0371　0441　3-2787　0241　3-2787　0241
小島貞二 著　決定版快楽ブラック伝　恒文社
花園兼定 著　異人の言葉　四條書房
鈴木雄雅 著　ある英人新聞発行者を追って　A.W.ハンサードの軌跡　研究ノート
鈴木雄雅 著　解説日本における初期欧字紙について　ix　日本初期新聞全集1　ぺりかん社
佐藤　考 著　明治初期新聞政策史の一考察　横浜開港資料館紀要第7号
尾崎三良 著　尾崎三良自叙略伝　中央公論新社
萬国新聞
立脇和夫監修　幕末・明治在日外国人・機関名鑑　第一巻、第二巻立脇和夫監修　ゆまに書房
森　慶造 著　近世名匠談終　春陽堂

芝にある風景

オランダ王国大使館

絵・文 大野正晴

東京タワーの近く、高台にあるオランダ王国大使館。わたしの子どもの頃、大使館の周辺は、浄水場があって小さな森も点在しており、セミやトンボ採りの恰好の場所でした。虫採りを楽しみながら高台に望んでいた瀟洒な建物は今も変わらず。昔から一度は訪れてみたい場所でしたがなかなか機会に恵まれず、今回初めて、昨年の区民まつり記念バッジの特典※で、特別に入ることができました。敷地内はとても静かで落ち着いた雰囲気でした。穏やかなひとときに心も落ち着きます。窓から見えた室内には達磨大師の絵が飾られており、江戸時代から日本との貿易が盛んだった国ならではだと、妙に納得してしまいました。オランダ王国大使館と言えば裏庭に咲くチューリップが有名ですが、この素晴らしい空間で咲き誇るチューリップはさぞ美しいことでしょう。華やかに彩られた裏庭の風景を想像すると、より一層、春の訪れを待ち遠しく感じられます。

※区民まつり記念バッジの特典は毎年変わります。

●大野正晴
昭和26年(1951)生まれ。新橋で生まれ育ちましたので、特に港区、芝地区には愛着を持っています。この地域は歴史的な名跡が多く、ニュースポットもいろいろとあります。心に感じた風景を今後も描き続けたいと思っております。
37年間、新橋にあるタカトク金物(株)に勤務。

町会・自治会トピックス

浜三町会の餅つきに参加しました

餅つきの様子

年の瀬が迫る中、芝大門と浜松町の一部を区域とする浜三町会の餅つきを訪れました。

この餅つきは、40年以上前に近隣に住む方々が始めたのがきっかけで、現在は、浜三町会の青年部と婦人部を中心に、町会員や近隣町会の方々と協力して行っているそうです。

当日の参加者はさまざまで、小さなお子さんからお年寄り、また近くにお勤めのサラリーマンや日本に観光に来た通りすがりの外国人まで集まり、大いに賑わっていました。

浜三町会は餅つきのほかにも、お花見や新年会などのイベントを行い、町会員同士の交流を深めているそうです。

浜三町会 上島会長の思い

「餅つきなどのイベントをきっかけに、町会員や参加者同士の交流を持つことができます。また、地域の人と顔見知りになることで、災害時など困ったときに助け合えます。お年寄りなど餅つきに参加できない方には、高齢者の見守りもかねて毎年つきたてのお餅を届けており、みなさん喜んでくれるので、とてもやりがいがあります」

町会・自治会は、地域の方々が支えあい、安心していつまでも住み続けることのできる地域づくりを行っています。

次はあなたの町会・自治会に訪問するかも!? 今後も町会・自治会の活動を紹介していきます!

浜三町会の区域
芝大門2-4、5
浜松町2-1～4

あなたも「町会・自治会」の活動に参加しませんか?

町会・自治会について、「どんな活動をしているの?」「町会費など詳しく知りたい、でもどこに聞いたらよいか分からない」とお思いの、芝地区にお住まいの皆さんや事業所の皆さん!

区では、次のとおり皆さんの町会・自治会への加入を支援しています。お気軽にお問い合わせ、またはアクセスしてください。

1 区ホームページの「町会・自治会一覧」ページで、ご自分のお住まいや事業所が、どの町会に該当するのかチェックできます。スマートフォンで右記ＱＲコードから、またはパソコンで下記アドレスへアクセス。
http://www.city.minato.tokyo.jp/shibakyoudou/shiba/kurashi/chokai.html

2 上記ページでは、加入希望票や、加入希望票ハガキを掲載したリーフレットをダウンロードできます。

表

裏

加入希望票は記入の上ファクスで、リーフレットはA4サイズ普通紙に拡大縮小せず印刷してハガキフォームを表裏貼り合わせ、記入の上ポストへ投函するだけでＯＫ。切手は不要です。後日、町会・自治会または区担当者からご連絡を差し上げます。

会費や活動の詳細については、町会・自治会から連絡があった際にお尋ねください。

3 リーフレット本体をご希望の場合は、芝地区総合支所協働推進課の窓口で配布しています。

問合せ先　芝地区総合支所協働推進課協働推進係
TEL 03-3578-3126

エコプラザ

区立エコプラザのまち歩き、「みなと歴史さんぽ」に参加してみませんか?

春の訪れを感じる今日この頃。まちへ、公園へのんびりと出かけてみませんか?

港区は都心でありながら、驚くほど“みどり”に囲まれ、特に、芝公園をはじめ芝・麻布台地区は樹木のバラエティに富んでいて、普段何気なく通り過ぎている木々に、私たちの知らないドラマティックな歴史が秘められていたりします。

そこで、今回の区立エコプラザの「みなと歴史さんぽ」シリーズは、若葉が芽吹くこの季節に、芝から麻布台にかけて、そんな樹木たちを巡ってみたいと思います。

130年以上前に米国の英雄が手植えをしたマツや、戦災に遭いながらも今なお力強く生き続けるイチョウ、一度は絶滅したものの、見事に再生した「生きた化石」と呼ばれるメタセコイアなど、何も語ってはくれない木々に代わり、エコプラザのインタープリター※が、その樹木が辿ってきた歴史や由来を皆さんに分かりやすく、そして楽しく解説いたします。参加費は無料！無理のないコース設定ですので、どなたでもお楽しみいただけます。おひとりでも、ご家族でも、どうぞお気軽にご参加ください。

解説の様子

エコプラザは、港区の歴史や文化を通じて、さまざまな団体の取り組みから「環境」を再発見し、集いあい、学びあい、教えあう場所です。身近なエコ活動から地球規模のテーマまで、幅広く紹介したり、体験したり、学習したり―。いつも何かが行われている楽しいエコ発信基地です。ぜひお越しください。

芝公園散策の様子

※インタープリター:自然や場所が発するメッセージを解説するガイドのことです。エコプラザでは、研修を修了した区民の方々に務めていただいています。

みなと歴史さんぽシリーズ“名木を巡る”～芝・麻布台の自然と歴史～

開催日時　3月27日(日)午前10：00～午後0：30
集合場所　区立エコプラザ（解散は東京メトロ神谷町駅付近）
参加費　無料
申込方法　TEL 5404-7764 または下記ホームページまで

Information

区立エコプラザ　浜松町1-13-1
開館時間：午前9時30分～午後8時
休 館 日：毎月第4月曜
TEL 03-5404-7764　FAX 03-5404-7765
●ホームページ　http://minato-ecoplaza.net/

芝地区掲示板

お知らせ

障害者差別解消法が施行されます

平成28年4月1日から、「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律(障害者差別解消法)」が施行されます。

この法律は、行政機関等や民間事業者に対し、障害を理由とする「不当な差別的取扱いを禁止」するとともに、障害のある人が日常生活や社会生活を送る上での「社会的障壁」を取り除く、「合理的配慮の提供」を求めています。

地域全体で障害を理由とする差別をなくし、障害のある人もない人も、お互いの人格と個性を尊重し、支え合いながら、ともに生きる地域社会の実現をめざしましょう。

○不当な差別的取扱いの例
- 障害があるという理由だけで、サービスの提供や入店を拒否する。

○合理的配慮の提供の例
- 段差がある場合に、車椅子利用者にキャスター上げ等の補助をする。
- 筆談、読み上げ、手話等の手段を用いて説明等を行う。
- 周囲の人の理解を得た上で、申請手続き等の順番を入れ替える。

法の規定	不当な差別的取扱い	合理的配慮の提供
行政機関等	禁止	法的義務
民間事業者	禁止	努力義務

問合せ先　障害者福祉課障害者福祉係
TEL 03-3578-2670
FAX 03-3578-2678

区役所のサービスや施設・催しの案内はみなとコールがお答えします！　TEL03-5472-3710　年中無休 午前7時～午後11時

芝 地 区 掲 示 板

芝会議からのお知らせ

芝地区区民参画組織「芝会議」メンバー募集

芝地区をより良いまちにしようと考える皆さんが、区と協働して活動しています。

❶まちの魅力発掘部会
- 語り部養成講座、芝の語り部、マチ・マップ芝

❷まちづくり部会
- 環境、エコロジー、防災

❸地域コミュニティ部会
- 世代間交流イベント、地域ルール「芝しぐさ」の発信

❹地区版計画推進部会

港区基本計画芝地区版計画書の見直しを検討します。

対　象　芝地区在住・在勤・在学者

活動日　会議は平日の夜間に月1～2回程度、イベントが年2～3回程度

その他　報酬、交通費などの支給はありません。会議の際は一時保育を希望できます。

申し込み　住所、氏名、職業（学校名）、電話番号、メールアドレス、希望部会名を記入し、郵送またはファックスで3月21日（月）までに下記へ。

問合せ先　〒105−8511　港区芝公園1−5−25
港区芝地区総合支所協働推進課地区政策担当
TEL 03−3578−3192　FAX 03−3578−3180

お知らせ

平成28年度
港区民交通傷害保険に加入しましょう

港区民交通傷害保険は、少額の保険料で加入でき、車両による交通事故でケガをしたときに、入院や通院治療日数と通院治療期間に応じて保険金をお支払いする保険制度です。

また、自転車または身体障害者用車いすの所有・使用・管理に起因して、他人にケガを負わせたり、他人の財物を壊したりしたこと等によって発生した、法律上の損害賠償を補償する「自転車賠償責任プラン」も併せて募集します。

自転車事故でも被害の大きさにより多額の損害賠償金を支払わなくてはならない場合もあります。いざというときのために「自転車賠償責任プラン」も併せてご加入されることをお勧めします。

詳しくは、各総合支所で配布するパンフレットまたは港区ホームページをご覧ください。

※自転車賠償責任プランのみに加入することはできません。
※今回の募集より保険料金が改定されました。

加入対象者　平成28年4月1日時点で港区に住所がある人

保険期間　平成28年4月1日午前0時～平成29年3月31日午後12時

加入方法　◎個人加入の場合

各総合支所協働推進課協働推進係または区内金融機関（銀行・信用金庫・信用組合・ゆうちょ銀行・郵便局）で配布する加入申込書に記入の上、保険料を添えてお申し込みください。

◎10人以上の団体加入の場合

各総合支所協働推進課協働推進係で、団体加入申込書に記入の上、人数分の保険料を添えてお申し込みください。

加入申込期間　2月1日（月）～3月31日（木）
※金融機関での申し込みは3月22日（火）までです。申込期間外の加入はできません。

コースの種類と保険料　表の6つのコースから１つを選んで加入してください。複数のコースへの加入はできません。

コース	補償内容	年額保険料	最高保険金額
A	区民交通傷害Aコース	1,000円	150万円（交通傷害）
B	区民交通傷害Bコース	1,700円	350万円（交通傷害）
C	区民交通傷害Cコース	2,900円	600万円（交通傷害）
AJ	区民交通傷害Aコース＋自転車賠償プラン	1,300円	150万円（交通傷害）＋1,000万円（自転車賠償）
BJ	区民交通傷害Bコース＋自転車賠償プラン	2,000円	350万円（交通傷害）＋1,000万円（自転車賠償）
CJ	区民交通傷害Cコース＋自転車賠償プラン	3,200円	600万円（交通傷害）＋1,000万円（自転車賠償）

〔引受保険会社〕

このご案内は、概要を説明したものです。
詳しくは、損害保険ジャパン日本興亜㈱東京公務開発部営業開発課（千代田区霞が関3−7−3）にお問い合わせください。TEL03−3593−6506

問合せ先　芝地区総合支所協働推進課協働推進係
TEL 03−3578−3123

（SJNK15−13941、平成28年1月5日作成）

平成28年2月1日(月)
就労継続支援A型事業所

パン工房Quatre（キャトル）がオープンしました。

―おいしい焼きたてのパンを販売します―

販売時間：午前11時半～午後1時（予定）

どんなお店?

- 障がいのある方々が働くお店です。
- 障がいのある方々に、就労の機会を提供するとともに、企業等の就労に必要な知識や能力の向上を図ります。また企業等への就労に向けた支援を行います。

Information

パン工房Quatre

港区芝1−7−1 第二中島ビル1階
営業時間：午前8時30分～午後3時
定 休 日：土・日・祝日
TEL 03−6435−1851
FAX 03−6435−1852

- 都営浅草線・大江戸線「大門駅」A1・A3出口…徒歩10分
- 都営三田線「芝公園駅」A1出口…徒歩10分
- 都バス（都06）・ちぃばす芝ルート「金杉橋」…徒歩3分

芝地区MAP

本誌に掲載した記事に出てくる施設などをまとめました。
ウォーキングマップとしてご活用ください。

1～20は旧町名由来板の設置場所
※3は現在、欠番となっています。

1 末げん → P1
2 アンデレ教会 → P2
3 東海菓子店 → P3
4 AJALT → P4
5 三田いきいきプラザ → P4・5
6 神明いきいきプラザ → P4・5
7 虎ノ門いきいきプラザ → P4・5
8 ご近所ラボ新橋 → P5
9 オランダ大使館 → P6
10 エコプラザ → P7
11 パン工房Quatre（キャトル） → P8

●本誌の制作には以下の編集委員が参加しています。
伊藤早苗／菊池弓可／清田和美／桑原庸嘉子
齋藤恵里花／酒井郊美／柴崎賢一／柴崎郁子
田岡恵美／髙井志保／千葉みな子／中川寛之
中島洋／早川由紀／浜島孝啓／町田明夫
森明／森田友子／米原剛（五十音順 敬称略）
●今後の発行スケジュールは次の通りです。
H28.6.1発行（第39号）、H28.9.1発行（第40号）、
H28.12.1発行（第41号）、H29.3.1発行（第42号）

芝地区地域情報誌の配布について

芝地区総合支所【芝、海岸1丁目、東新橋、新橋、西新橋、三田1～3丁目、浜松町、芝大門、芝公園、虎ノ門、愛宕】内の地域の方にお届けしているほか、地区内各施設等で配布しています。

芝地区地域情報誌編集委員を募集しています!

芝地区の話題を発掘、取材し、執筆していただく地域情報誌編集委員（記者）を募集します。

対　象　芝地区に在住、在勤、在学で取材に携わりたい人

内　容　地域の話題の収集、取材、写真撮影、原稿作成など（年４回発行予定）。発行ごとに平日の昼夜間に２時間程度の取材と、平日夜間に２回程度編集会議への参加があります。

申込み　氏名、住所（在勤、在学の方は所在地）、連絡先、在住・在勤・在学の区別を明記の上、芝地区総合支所協働推進課まで、FAXまたは郵送でお申し込みください。

その他　報酬、交通費等の支給はありません。

港区芝地区総合支所協働推進課　〒105-8511 港区芝公園1丁目5番25号（港区役所2階）
TEL03-3578-3192　FAX03-3578-3180
ホームページ　http://www.city.minato.tokyo.jp/